

松戸市の特殊教育の歴史調査 余話—その 1—

全国特別支援教育推進連盟
副理事長 大南 英明

◎水口 凌さんのこと

水口さんは、東京都立葛飾盲学校で重複障害児（視覚障害と精神薄弱との重複障害）の指導に当たられ、教育庁学務部指導主事、杉並区立済美養護学校などを歴任されました。終生、重度・重複障害の教育に心血を注がれました。

水口さんと初めて出会ったのは、昭和45年2月、東京都立教育研究所で、44年度教員研究生の研究発表会の席でした。水口さんは、東京水産大学の中島教授の下で「重度・重複障害児の指導」について研究され、成果を報告されました。盲学校の教員が、重度・重複障害児の指導に取り組むことが珍しく、養護学校教育の義務制が実施される10年も前に「重度・重複障害」に注目されていることに驚きを覚えました。私は、当時、中学校の特殊学級を担当しており、言葉や文字での説明で分かる生徒が中心で、水口さんの報告事例に衝撃を受けました。45年、東京教育大学へ教員研究生として学校を離れたのを機会に、就学猶予をしている子ども、就学前の幼稚園・保育所へ入れない子どもたちのための「幼児教室」を月2回開きました。ずっと思い悩んでいたことでしたが、水口さんとの出会いが、背中を押してくれ、学校教育の対象外とされていた子どもたちと活動をともにすることになりました。このことが、47年、当時の特殊学級の入級基準に合わない子どもたちのために設けられた二葉小学校の特殊学級を担当することになりました。水口さんの報告の内容が、子どもたちとの接し方、教材・教具の開発・工夫などに役立ちました。

48年12月、東京都教育委員会は、障害児の希望者全員就学に対応するため、就学相談を開始することになり、7名の教員が、教育庁学務部に招集されました。4年ぶりに、水口さんと再会し、就学相談の業務を机を並べながら進めました。相談会場が同じ時には、重複障害の子どもの見方など、様々な助言、指導をいただき、目が覚める思いでした。

重複障害児の指導についての研究会で、熊本大学附属養護学校へご一緒に出かけたこともあり、水口さんの郷里へも案内していただきました。

水口さんから「松戸で近藤さんといっしょに小学校の学級を受持ったことがあるよ。」と伺ったことがありました。

今回、松戸市の特殊教育の歴史を調べている中で昭和36年～38年、松戸市立中部小学校で特殊学級を担当されていたことが分かりました。そして、松戸市手をつなぐ親の会の設立（36年）、松戸市立第一中学校の特殊学級の設置（38年）に尽力されたことが、記録に残されていることを見つけました。

東京都立葛飾盲学校、重複障害教育研究所等で活躍された水口さんのルーツが松戸にあったことに改めて縁の深さを感じる此の頃です。

(※用語は、当時のものをそのまま使用しています。)